



青森県と韓国済州道・台湾台中市との交流促進 ～地域資源を生かしたさまざまな取組を通して～

青森県観光国際戦略局誘客交流課

青森県は 2016 年度において、近隣地域との更なる国際交流を促進するため、韓国・済州特別自治道との友好交流協定の姉妹提携協定への格上げおよび台湾・台中市と友好交流協定の締結を行いました。今後、交流人口の拡大やグローバル人材の育成など、両地域の相互発展に向けて協調して取り組んでいくこととしました。

大韓民国・済州特別自治道との交流

済州特別自治道とは、2011 年 12 月に、友好交流協定を締結し、行政間の相互訪問のほか、世界自然遺産やウォーキングなど、さまざまな分野での交流が進められていました。2016 年 8 月には、友好交流協定から 5 年目になることを契機として、これまでの交流をさらに拡大していくため、済州特別自治道の元喜龍（ウォン・ヒリョン）知事が来県し、友好交流協定を格上げする形で姉妹提携協定を締結しました。



2016 年 6 月、済州特別自治道から世界遺産関係者が来青。世界遺産白神山道を案内

(1) 青少年交流

済州特別自治道で開催される「済州国際青少年フォーラム 2017」に本県の高校生 4 名が参加し、韓国、中国、米国、カナダなど約 130 名の高校生とともに 5 日間の共同生活を送りながら、英語でのディスカッションやプレゼンテーション、野外学習を行いました。



2017 年 11 月、済州みかん国際マラソンに本県選手 3 名が参加

また、済州道立美術館と青森県立美術館において、両地域の小学生が図画工作を通じた交流を行っています。

(2) スポーツ交流

青森県にはアップルマラソン大会が、済州特別自治道にはみかんマラソン大会があり、それぞれの大会に両地域を代表した選手が参加しています。

また、青森県ではサイクリングと観光を組み合わせたサイクルツーリズムに取り組んでいるところであり、もともとサイクリングが盛んである済州特別自治道とのサイクリングの交流も進めています。



2018 年 1 月、本県児童 6 名が済州道立美術館を訪問し、地元小学生と図画工作を通じた交流を実施

台湾・台中市との交流

2016年12月、青森県と平川市は、台湾の台中市との産業、文化、スポーツ、教育など幅広い分野における交流を推進するとともに、さらに友好交流を深めるため、三者で友好交流協定を締結しました。

(1) ランタンフェスティバルにおけるPR

台中市で開催されているランタン祭りへ平川市がねぶたを展出するとともに、女子囃子組の演奏披露など、青森県が世界に誇る祭りを紹介し、本県のPRを実施しました。



ランタンフェスティバルにおける平川市のねぶた展示および女子囃子組の演奏披露

(2) 温泉交流事業

青森県は温泉湧出量（13万6,404ℓ/分）、温泉地数（133か所）において全国第4位、また古くから湯治文化があるなど、「温泉」は重要な地域資源です。

2017年12月、青森県温泉協議会と台中市温泉観光協会は、双方の豊かな自然が育んだ豊富な温泉とその利



2017年12月 青森県温泉協議会と台中市温泉観光協会と友好交流連携協定締結

用文化をお互いに理解し、われわれが持つこの天然の恵「温泉」の効用を日本・台湾のみならず広く世界に知らしめ、なお一層の利用促進と誘客を図るため、友好交流連携協定を締結し、相互の温泉・施設情報の共有や利用情報の発信を行うとともに、国際温泉観光振興を図ることとしました。

そのため、青森県温泉協議会では、自転車愛好者が多い台湾をターゲットに温泉宿泊と合せたサイクルツーリズムを推進することとし、自転車の配置や台湾向けサイクリングマップ作成などを行っています。

2018年度は、台中市で毎年開催される温泉祭りに青森県温泉協議会が招待されており、浴衣コンテストや温泉弁当コンテスト、台湾で有名な青森リングの調理イベントなどを通して、青森県と青森県の温泉の魅力を伝えることとしています。



2016年12月 青森県、平川市、台中市と友好交流協定締結（左から長尾平川市長、林中市長、三村青森県知事）

今後に向けて

県内外国人延べ宿泊者数は、2011年3月に発生した東日本大震災以降、堅調に増加しており、2017年1～12月で、昨年1年間の約1.3倍となり過去最高を記録し、東北6県の中でも初めて第1位となりました。その中でも、台湾が7万8,420人泊で第1位、韓国が2万9,910人泊で第3位となっています。

今後も、地域資源の魅力を生かし、済州道および台中市とのさまざまな交流事業を積極的に展開することで、交流人口の拡大につなげ、本県の地域経済の活性化につなげていきたいと考えています。